

2年生進路ガイダンス

7月に実施予定でしたが、台風により延期になっていました。お忙しい中、2度にわたり日程を調整いただき、生徒たちのために講義をしていただきありがとうございました。

今年度は以下のような日程で4名の先生方に講義をしていただきました。

日 時	文型(192名)アカシヤ	理型(171名)国際ホール
11月14日 (火曜日) 15:20~ 16:10	広島大学 大学院総合科学研究科 総合科学部 (英語学、日本語学・認知言語学) 町田 章 准教授	京都大学 大学院工学研究科 (環境リスク工学) 米田 稔 教授
11月30日 (木曜日) 15:20~ 16:10	京都大学 大学院人間・環境学研究科 (歴史地理学) 山村 亜希 准教授	広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 薬学部 (衛生薬学、生体機能分子動態学) (分子神経毒性学) 古武 弥一郎 准教授

生徒は、文型、理型に分かれ、それぞれで、お二人の先生方の講義を聴きました。

国立大学の講義の一端に触れ、自らの進路を考える上で貴重な時間となりました。

11月14日

(文型) 町田先生「ことばから何が見えるか」



(理型) 米田先生

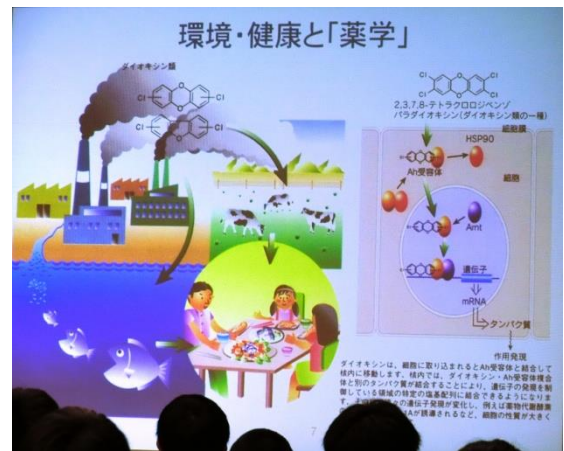


11月30日

(文型) 山村先生



(理型) 米田先生「薬学への招待～身の回りの化学物質とその毒性」



【生徒の感想より】

～文型～

- ・ 普段何気なく使っている日本語でも研究してみるととても奥が深いことがよく分かった。
- ・ 自分たちが言語に依存していることがわかった。
- ・ 言語知識は無自覚であるから、無意識の習慣が身につくと無視をする習慣が身につくと言うことが印象に残った。
- ・ 研究することは楽しいことだと思った。これから興味ある分野を見つけたい。
- ・ 言語が異なると、注目する点が変わって、モノの見方が変わるというのがおもしろかった。
- ・ 得意・不得意だけでなく、好き嫌い、または自分のやりたいことかどうかで将来を選択することもできるのだと気づいた。地理と歴史を混合させた歴史地理学。1つのものに絞らなくても、視野を広くして、色々なことを学ぶことも可能なのだと思うと、将来なりたいものをもっとふくらませてみたいと感じた。
- ・ 歴史地理学というなんだか合体したような学問があることを初めて知りました。だから大学を選ぶ上で、どのような学部があって、どんなことを学ぶのかももっとしっかり調べればより自分の学びたいものに出会えるのではないかと思った。

～理型～

- 1回土地が壊れると戻すのはすごく難しいことだと初めて知った。土地が壊れる前に、何か対策していかなければならないと思った。日本では煙害も砂漠化もあまりなくて、関心を持ったことがなかったが、世界の環境の現状を知って、自分にできることを考えて行動しようと思った。
- 大学というところは本当にすごいし、自分の興味があることに関してとことん突き詰めていけるので、とてもおもしろいなと思った。
- 土壌問題などの環境問題（最近では豊洲問題）についても考察することができるような学部ということで興味が沸いた。人間の行動の積み重ねによって環境に対して大きな影響を及ぼすこともあるので、やっってから改善というような態度ではなく、行政機関に対してアドバイスができるような人間になれるよう、広い分野についての知識を持ち、各国の現状についてしっかりと情報を持っておきたい。
- 薬学部といえば薬剤師になるために進学するイメージが強かったが、薬に関する情報を提供するという大切な役割があると分かりました。
- 一番印象に残っているのは、がんの原因の4分の3が身の回りにある化学物質であるということだ。
- 薬学は大きく分けて3分野に分けられ、薬学の幅広さに驚いた。医薬品はとても長い時間と莫大なお金や人員があって1つの薬ができるということを聞いて、医薬品というのは重要なものであるということがわかった。また、川などで見つかった化学物質を研究する際、工学の観点と薬学の観点では、研究内容が違うという話がおもしろいと思った。薬学では、発見された化学物質がどのように人間と関係しているのかや、どのようなメカニズムかということの研究していくことが分かった。